

次いでドイツのジモーネ Simone Busch 女史。

plötzlicher Wind sudden gust
ein Kind trägt Kirschblüten a child carries blossoms
in die Zukunft into the future

突風 子供は花を未来へ 持っていく

桜の花びらが子供の頭や肩に降りかかる。作者は子供が花びらを振り払わずに自らの未来へ持っていくように思う。将来への志を秘めた子供たちの意気を感じているようである。彼女はいつも身近なことから、深い心を詠まれる。

次はデンマークのボー Bo Lille 氏。

Anemonerne the anemones
står i kø under sneen queuing up under the snow
venter på varmen waiting for the sun

アネモネが 雪の下で列をなして 太陽を待っている

多方面に活躍する彼は多忙のなか、たくさんの句を送ってくださった。当句は明るい行く手を謳歌してくれているようで嬉しい。

次はオーストラリアのリーネ Leanne Mumford 女史。

petals shower
from the jacaranda
a blue wren's song

ジャカランダの花びらの雨 青ミソサザイが歌って

ジャカランダのきれいな紫色の花びらがひっきりなしに降るなか、青ミソサザイが可愛く囁っている。作者らしい、明るく、楽しい作品。俳句と共に、ミソサザイの姿とその鳴き声やジャカランダを楽しめる URL もいただいた。
<http://www.mdahlem.net/birds/16/supfairy.php> でミソサザイをどうぞ。

紙面の都合でもう一人だけとなれば、ニュージーランドのアーネスト Ernest Berry 氏を欠かせない。

arriving on the wings
of a light breeze
another dawn

爽やかな風の翼に乗って また新たな夜明けが

温厚そのもので、典型的なキーウィ（NZ 人の愛称）であるアーネストは 20 年来の句友。世界各地の俳誌や俳句コンテストで活躍するベテランの彼が、平易な表現で、静かに、深く、「笹」の前途を祝ってくださっている。

みなさん、ありがとうございます。

Haiku in English

池本 健一

今回は筆者の句友の「笹」への祝句を披露したい。「祝 35 周年の一句を」の呼び掛けに応えて、心を込めて詠んでくださったものである。皆、一度以上来日したことがあり、本欄で紹介したこともある。英語訳も本人の作品。

まずはハンガリーのフェレンツェ Bakos Ferenc 氏から。

Whiskymhez	For my whisky
bátorkodom letörni	I take the liberty to break down
jégcsapod, Fujisan!	your icicle, Fujisan!

私のウィスキーに あなたのつららをいただきますよ 富士山さん！
フェレンツェはウィスキーで「笹 35 周年」に乾杯してくれている。そのオンザロックに富士山のつららをいただくと詠むところが彼のウィット。
3 年前、富士山好きの彼と一緒に富士山を仰ぐ箱根の露天風呂を楽しんだ。

次はカナダのジャンニク Janick Belleau 女史。

doux début mars	mild early march
le lac Saint-Louis scintilla	lake Saint-Louis sparkles
nous prenons le thé	our afternoon tea

温和な 3 月初め サン・ルイ湖がきらめき輝く 午後のお茶を
作者が住むモントリオール湖。例年より暖かく、踊り子が踊るような動き
をする湖水に太陽が燦々とふり注いでいた。その光景は未来の吉兆のように
思えたという。湖畔で、英国式のアフタヌーン・ティーで憩ったようである。
メールで意見交換しながら、英仏語の一語一節を丁寧に練ってくださった。

次はオーストリアのディートマー Dietmar Tauchner 氏。

zwischen Sternen	between stars
Scheinwerfer durchsuchen	headlights searching through
die Nacht	the night

星の間を ヘッドライトが探索している 夜の間
星のきれいな夜に、郊外のハイウエーを車がヘッドライトを点けて走行して
いる。それ自体は日常的だが、作者は車からスペースシャトルを思い、車の
ヘッドライトが夜中、星の間に何かを探し求めていると感じた。敷衍すれば、
我々の結社も、なお、未踏のものを求めて進む道中にあるともいえようか。
通常の光景でありながら、その背後の大きなものを詠むのが彼の特色である。
主宰が繰り返し述べておられることと通底すると思う。